

氏名	田 川 真 也
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 乙 第 2774 号
学位授与の日付	平成 6 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	悪性リンパ腫の病態と治療に関する研究 第 1 編 悪性リンパ腫化学療法後の 2 次癌発症に関する検討 第 2 編 悪性リンパ腫における natural killer 活性の検討
論文審査委員	教授 赤木 忠厚 教授 辻 孝夫 教授 太田 善介

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

1976年から1990年に岡山大学第二内科で化学療法による初回治療を開始したホジキン病(HD) 23例, 非ホジキンリンパ腫(NHL) 177例における2次癌発症について検討した。その結果, HD 2例, NHL 8例に2次癌発症が認められ, 累積発生率は, 7年の時点においてそれぞれ7.7%, 11.7%であった。2次癌の内訳は, 胃癌3例, 肺癌2例, 肝細胞癌2例, 大腸癌1例, 胆管癌1例, 急性骨髄性白血病1例であった。観察人年法に基づいた各2次癌の観察数は, 非ホジキンリンパ腫における胃癌の発生を除いて, 予測発生数より有意に高率であり, 化学療法後に種々の2次癌が通常よりも高率に発生する可能性が示された。

2次癌の要因の一つとして, 悪性リンパ腫と免疫異常との関連が推察されている。そこで, 悪性リンパ腫症例におけるnatural killer活性(NK活性)を, 長期完成寛解例を含めて検討した。その結果, NK活性は治療前には31%の症例において低値であった。一方, 長期完成寛解例においても低値を示す症例が少なからず認められ, その頻度は, 他の免疫パラメーターの異常の頻度と比べ比較的高率であった。従って, NK活性の測定は長期完成寛解例を含む悪性リンパ腫の免疫異常を捉えるために有用と考えられた。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は悪性リンパ腫化学療法後の2次癌発生の頻度と、2次癌発生の要因のひとつとしてのNK活性およびその他の免疫学的指標について検討したものであるが、2次癌の発生と悪性リンパ腫における免疫異常について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。